

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	那覇市			代表者名	知念 寛
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	市民文化部まちづくり協働推進課	連絡先電話番号	098-861-3846
担当者役職	主査	担当者氏名	新垣 威知郎	連絡先E-mail	
住所	901-8585 沖縄県那覇市泉崎1-1-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	なは市民協働大学院
概要	職員及び市民活動団体へのデータ活用とオープンデータ化の機運を高める		
支援を求める分野	オープンデータ AI 活用 人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年9月6日	講演(実地)	15時00分	21時00分	60
				活動時間（分）	300
2-2. 派遣場所	会場名	那覇市役所本庁舎	最寄駅	ゆいレール県庁前駅	
	所在地	沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号	最寄駅からの交通手段	徒歩	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	多田 功
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	データとはという基礎から始まり、その収集方法、分類、オープンデータ化までを丁寧に解説していただき、受講生のデータに対する理解がとて深かった。生成AIを使ったデモンストレーションでは、今後の業務に生成AIを取り入れたいとする職員が多数いた。他都市のデータ化事例の紹介では、本市においても活用できそうな事例もあり、受講生一同大変興味をそそられていました。また、なは市民協働大学院の受講生も多数参加しており、地域の課題発見、その解決に今回の講座が大いに役立った。
アドバイザーへの要望事項	特にございません。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	80人
	属性	企業・団体	その他(学生など)
	自治体職員	住民	
	人数	40	40
		0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	本市においてはオープンデータ化の機運が薄く、業務にデータを活用する頻度も低かった。また、本市が市民に学びの場を提供するなは市民協働大学院においても、受講生による地域課題の派遣及び解決に向けてデータに裏付けされた具体的な企画を作成することが困難であった。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	本市職員のオープンデータ化の機運の醸成及び、業務における積極的なデータ活用、なは市民協働大学院受講生が地域課題の発見・解決にあたってデータに裏付けされた分析、データを活用した仮説を立てられることで、本当の地域の課題を発見し、それを解決できるようになること。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	データの基礎、収集方法、分類方法、政策の目的と目標の立て方、地域課題解決におけるデータ活用・分析事例、デザインシンキングについて、オープンデータの存在と価値その活用方法、データ可視化の事例、生成AIの活用方法	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	本市に置いてオープンデータ化に向けての機運は高まっていった。データや生成AIについて基礎から学ぶことにより、業務におけるそれらの活用を前向きに検討し、実際に活用する職員も出てきており、一定の効果は得られた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 具体的な成果物はまだなく、今後本市の保有する情報を積極的にオープンデータ化するとともに、それらのデータを活用し本市の地域課題の発見及び解決に今回の講座を活かしていきたい。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	本市の提供する学びの場であるなは市民協働大学院においては、受講生がデータを基礎から学ぶことにより地域課題の発見及び解決に向けて、データの収集活用に向けてたくさんの学びがあった。12月7日にはその学びの最終成果発表が行い、地域課題の発見及び解決をプレゼンするが、11月の派遣事業を活用しさらなる学びを得て、よりブラッシュアップされたプレゼンを行えるよう今後も取り組んでいく。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 本市職員及びなは市民協働大学院受講生等にアンケートを行った結果、今回の派遣事業にて開催した講座の内容について、講座内容をそれぞれの事業や現在取り組んでいる課題の発見及び解決に活かそうとの声や、生成AIの活用やオープンデータの活用についても取り組んでみたいとの声が上がっていた。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	⑤その他 今回の講座をふまえて具体的な内容を固めてから予算措置等を行い、実際に推進していきたい。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	本市の保有する情報を可能な限りオープンデータ化し、市民自らがそのデータを活用し地域課題を発見し、自ら又は行政と協働し解決を行い、より住み良い地域を実現していける那覇市を目指します。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

<https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past-year-all-houkoku/>

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

